

⑥ 自然教育園の新記録種 (動物 2010年 - 2014年)

萩原信介*・吉野由美子*

Newly Observed Animal Species From 2010 to 2014 in Institute for Nature Study.

Shinsuke Hagiwara*, Yumiko Yoshino*

はじめに

自然教育園の動物目録は、開園直後の1952年から1963年に発行された「自然教育園基礎資料」に昆虫類などいくつかの分類群について初めてまとめられた。東京オリンピックに伴い1968年には本園の西側の敷地に高速道路が建設されることとなったため、この高速道路予定地を含む本園全区域について生物群集の調査が行われた。

さらに3回目として、1977年から3年間にわたって「自然教育園生態系特別調査」が行われ、動物ではトンボ類やハムシ類、アリ類などの昆虫のほか、多足類、クモ類、鳥類などが調査され、調査結果を含めた全動植物種が1984年に発行された「国立科学博物館附属自然教育園動植物目録」に収録されている。

その後4回目として、文部省科学研究費補助金の助成を受けて1998年から3年間にわたり「自然教育園生態系特別調査」を実施し、生態学的な知見からの報告のほか一部の分類群について目録が作成された。

その後、久居宣夫の目撃記録が加味された動物目録が2007年にまとめられた(国立科学博物館附属自然教育園, 2007)。この記録は自然教育園ホームページの生物の種名データベースに反映されている。その後2009年の12月以降(久居, 2010)は調査が行われていなかったが、この間現在までに新しく記録された種を一括して報告する。

調査方法および結果

目録作成にあたっては、和名や学名等は自然教育園ホームページの生物の種名データベースに準拠した。種の同定はすべて写真撮影したものだけに限り、目撃記録は省いてある。同定の難しいグループに関しては取り上げておらず、ある程度自信の持てる種について取り上げ、図鑑・ネットブログ等ですべて同定を行った。しかし著者らは専門外でありしたがって誤同定も多々あると思える。コガタウツ

*国立科学博物館附属自然教育園, Institute for Nature Study, National Museum of Nature and Science

ギヒメハナバチに関しては動物研究部の篠原明彦氏を通して長瀬博彦氏にご教示いただきました。ここに記して深謝する次第である。

観察は週1度の生物季節調査の折に撮影されたものが大半であるが、その他随時行われる野外作業の折の目撃撮影個体である。したがって写真判定のできる大きさ以上のグループ、昼行性・地上性のグループに限られている。しかしながらこの5年間に38種の新記録種が得られたことは大きな成果であった。また定期的な観測からある程度の定量的な知見も得られてきた。さらに古く記録された多くの普通種が最近観察されていないこともわかってきたが次回の報告に譲りたい。

1. シラヒゲハエトリ *Menemerus brachygnathus* クモ目ハエトリグモ科

撮影：2014/7/10 萩原. (育苗温室付近) インセクタリウムのコンクリート壁に撮影日から3週間は雄雌ともに普通に見られた。都内では普通種で近似種はいないので本種と同定した。皇居のクモのリスト (小野, 2000, 2006) には記載されていないが, 2011 - 2012年調査の明治神宮のリストには目撃記録があり, 市街地でもよく見られるとしてある (小野, 2013)。同科ではマミジロハエトリ (2013/3/27), とネコハエトリ (毎年普通に見られる) が撮影されている。



2. ヒロバネカンタン *Oecanthus aeuryelytra* バッタ目カンタン科

撮影：2012/9/26 萩原・吉野. 管理棟付近 管理棟前の道路拡張時に2011年から裸地になった場所にクズ, ヨモギ等が繁茂した草地ができたが, 数匹目撃され, 独特の鳴き声で判定。クズの葉裏で鳴く個体を携帯電話のカメラで撮影。2011年の9月にも本種の鳴き声が聞かれている。千葉県・神奈川県の実地では昔から目撃記録は多かったが, 都内でも普通種になっているようだ。

3. トゲヒシバッタ *Coriotettix japonicus* バッタ目ヒシバッタ科

撮影：2014/5/1 吉野. 水生植物園のカサスゲの葉上で撮影された。目撃はこの日だけで個体数は少ないと考えられる。翅は長く、左右にトゲが見られる点で本種と同定、近似種はいない。2011-2012年調査の明治神宮のリストにも見当たらない（山崎柄根, 2013）。



4. コアオカスミカメ *Lygocoris lucorum* カメムシ目カスミカメムシ（メクラカメムシ）科

撮影：2012/10/31 吉野. 武蔵野植物園のアワコガネギクに飛来する個体が数匹見られた。目撃はこの日だけであった。2011-2012年調査の明治神宮のリストにも見当たらない（石川忠・林正美, 2013）。



5. メンガタカスミカメ *Eurystylus coelestialium* カメムシ目カスミカメムシ（メクラカメムシ）科

撮影：2013/9/11 吉野. 水鳥の沼のカナムグラの花に1匹いた。目玉模様がはっきりして近似種と区別できる。以後目撃されていない。皇居では本種（友国他, 2000）と同属のハギメンガタカスミカメ（友国, 2006）が採集されている。



6. オオクモヘリカメムシ *Anacanthocoris triicornis* カメムシ目ヘリカメムシ科

撮影：2014/5/14 吉野. 武蔵野植物園と路傍植物園の食草であるネムノキの周辺で2012年から観察され幼虫も含め年に数回は見られる。また皇居では2001年に記録がある（友国, 2006）。2011 - 2012年調査の明治神宮のリストには見当たらない（石川忠・林正美, 2013）。



7. ホシハラビロヘリカメムシ *Homoeocerus unipunctatus* カメムシ目ヘリカメムシ科

撮影：2014/6/4 萩原. 路傍植物園でアズマネザサの葉上で撮影。2014/5/14にも武蔵野植物園で撮影。両区とも食草であるクズが繁茂している近くである。個体数は多くないが他所でも幼虫を含め年に数回は目撃している。皇居では1997年, 1999年に採集されている（友国他, 2000）。明治神宮でも記録がある（石川忠・林正美, 2013）。



8. ブチヒゲヘリカメムシ *Stictopleurus punctatonervosus* カメムシ目ヒメヘリカメムシ科

撮影：2014/9/3 吉野. 水生植物園のヘクソカズラの葉上で撮影。目撃はこの1回のみである。全体的に毛が密生し、赤みが少なく、脚に黒斑あることから近似のアカヒメヘリカメムシではないと考えられる。皇居（友国他2000, 友国2006）、神宮（石川忠・林正美, 2013）とも記録は無い。



9. シリアカハネナガウンカ *Zoraida horishana* カメムシ目ハネナガウンカ科

撮影：2012/7/26 吉野. 路傍植物園のガマズミの葉上で多数の個体が観察された。既存のアヤヘリハネナガウンカとは翅の後縁が波打たないことで区別した。最近記録された同属のマエグロハネナガウンカ（久居，2009）とは，図8のとおり尻部先端が赤いことで区別できる。幼虫はキノコに付くことが知られているが本園では確認されていない。

**10. ワタフキカイガラムシ（イセリアカイガラムシ）*Icerya purchasi* カメムシ目ワタフキカイガラムシ科**

撮影：2014/6/11 吉野. 2014年路傍植物園のトベラの枯れ枝に数匹見られた。オーストリア原産でミカン類など多種の常緑性樹木の害虫である。都内各地で普通に見られるが自然教育園では初記録となった。（河合，2000）によると皇居でも1996-1999年の調査では未発見であり，自然教育園での1972年，1998 - 1999年の調査でも未発見であった（河合，2002）。



11. アミメクサカゲロウ *Nacaura matsumurae* アミメカゲロウ目クサカゲロウ科

撮影：2014/12/5 萩原. 大型で、体調の倍以上ある長い触角で近似種と区別できる。管理棟の壁に1匹見られが、おそらくこのまま越冬したのであろう。皇居では多数採集され（塚口, 2000）、明治神宮でも記録されている（石川・林, 2013）。

**12. ヒロオビトンボエダシャク *Cystidia truncangulata* チョウ目シャクガ科**

撮影：2013/6/5 吉野. 武蔵野植物園で、上に食草のツルウメモドキの大木があるアズマネザサの葉上で目撃。腹部の四角く黒い模様が崩れていて、模様がはっきりしたトンボエダシャクと区別できる。同属でマサキやニシキギ科を食草とするトンボエダシャクは都内では数年に一度は大発生が見られる。本種も昼行性の普通種であると思えるが皇居・明治神宮では記録が無い。「みんなで作る日本産蛾類図鑑」に園内で撮影された写真が掲載されている http://www.jpmoth.org/Geometridae/Ennominae/Cystidia_truncangulata.html (2006/6/10)。



13. クロメンガタスズメ *Acherontia lachesis* チョウ目スズメガ科

撮影：2014/9/2 萩原. 教育管理棟の壁面で津野典子氏発見。皇居には記録が無いが（大和田他, 2006）、明治神宮では2012年に発見され、南方系の蛾で近年北進しているという（岸田, 2013）。幼虫も成虫もアブラゼミに似た鳴き声を出す。



14. マイマイガ *Lymantria dispar* チョウ目ドクガ科

撮影：2014/6/6 幼虫 萩原. 教育管理棟付近の倒木上で終齢幼虫発見。同年5/28にも目撃。同属のカシワマイマイは1952年のリスト（文部省国立自然教育園, 1952）に記録があるのみである。普通種の本種が今までで見られなかったのは不思議である。明治神宮（岸田, 2013）、皇居（大和田他, 2006）では採集されている。



15. クワゴマダラヒトリ *Lemyra imparilis* チョウ目ヒトリガ科

撮影：2014/5/28 幼虫 吉野. 終齢幼虫が水生植物園のカササゲの葉を食害。雑食であるが、クワの害虫でもある。冬が温暖な地域に発生が多い傾向があるという。明治神宮（岸田, 2013）、皇居（大和田他, 2006）には記録がない。



16. シラホシコヤガ *Enispa bimaculata* チョウ目ヤガ科

撮影：2013/3/19 幼虫 吉野. 水生植物園のソメイヨシノの枯死木（現在は撤去）で観察。地衣類を纏った幼虫が特徴的で、動きがないと樹皮と識別が不可能。近似のキスジコヤガ幼虫は突起が無い点で本種と区別できる。成虫は確認していない。皇居（大和田他, 2000）や明治神宮（岸田, 2013）ともに記録が無いが、赤坂御用地・常盤松御用邸では2004年に記録がある（大和田他, 2006）。



17. シロジュウシホシテントウ *Calvia quatuordecim* コウチュウ目テントウムシ科

撮影：2014/7/2 吉野. 路傍植物園のミズヒキ葉上で撮影。2012/10/31にもオトコエシの果実にいるものを撮影してある。成虫は中央の3対の白斑が直線状に並び、弧状となる近似種のムーアシロホシテントウと区別した。皇居（野村他, 2000, 野村他, 2006）や明治神宮（藤森・新里, 2013）ともに記録が無い。近似のムーアシロホシテントウは1999年に記録され（久居宣夫, 2009）幼虫も普通に見られる。



18. ニセビロウドカミキリ *Acalolepta sejuncta sejuncta* コウチュウ目カミキリムシ科

撮影：2012/7/19 吉野. 数年前から衰弱したシラカシの大木（H2035）が2012年1月に雪害で倒木となり、樹冠解析のため根元の幹を輪切りにして室内に保管したが、この円盤の中から羽化してきた個体を撮影。皇居（齊藤, 2000, 野村他, 2006）や明治神宮（岸田, 2013）ともに記録がある。同属のビロウドカミキリも2013/6/6に撮影されている。



19. キイロクビナガハムシ *Lilioceris rugata* コウチュウ目ハムシ科

撮影：2014/5/1, 2014/7/16 吉野. 水生植物園の湿地で2匹確認。2014/7/16には食草のオニドコロの葉上で食害する個体も撮影されている。アカクビナガハムシも過去の記録にある（国立科学博物館附属自然教育園, 2007）が本種は、上翅点刻は強く後方までであることで判別した。皇居（野村他, 2000, 2006）や明治神宮では記録されている（藤森・新里, 2013）。

**20. ハンノキハムシ *Agelastica coerulea* コウチュウ目ハムシ科**

撮影：2014/6/4 幼虫 吉野. 水生植物園のハンノキに終齢幼虫が大量発生して食害。葉は網目状になり褐変し遠くからでも確認できる。都内では石神井公園, 水元公園などのハンノキの成育する湿地では普通種であるが、ハンノキの多い自然教育園で今まで見られなかったのが不思議である。皇居（野村他, 2000, 2006）や、明治神宮（藤森・新里, 2013）にも記録は無い。



21. オジロアシナガゾウムシ *Mesalcidodes trifidus* コウチュウ目ゾウムシ科

撮影：2010/6/10, 2012/5/16, 2013/11/6, 2014/9/10 吉野. 近くに食草のクズが繁茂している路傍植物園のキハダの葉上で撮影。大型のゾウムシで都内でも普通に見られる種であると思えたが、初記録で、その後は同所でしばしば成虫が目撃される。皇居（野村他, 2000, 2006）や、明治神宮（藤森・新里, 2013）にも記録は無いが、区内のクズの多い公園では成虫・幼虫・さなぎ共によく目にする。



22. ウマノオバチ *Euurobracon yokohamae* ハチ目コマユバチ科

目撃：2013/5/12 須田真一. 筆者らは見ていないが須田真一氏が武蔵野植物園のコナラ林での目撃である。東京都では絶滅危惧種のDD（情報不足種）に指定されている。萩原は1991/5/20に世田谷区の貫井神社でクヌギの衰弱木で観察した記録がある。皇居（野村他, 2000, 2006）や、明治神宮（渡辺恭平, 2013）にも記録は無い。

23. シロスジヒメバチ *Achais oratorius albizonellus* ハチ目ヒメバチ科

撮影：2012/9/12, 2014/9/10 吉野. 水生植物園オオバギボウシの葉上で撮影。すばしこく動くがヒメバチとしては大型で、脚の脛節、触角、小楯板、複眼の隣縁、腹部末端に白紋があることで近似種と区別した。園内では時々観察される。明治神宮では採集記録がある（渡辺恭平, 2013）。皇居でも多数採集されている（小西・前藤, 2000）。



24. ホウネンタワラチビアメバチ *Charops bicolor* ハチ目ヒメバチ科

撮影：2014/5/28 繭 吉野. 武蔵野植物園のサワフタギの枝に繭が下垂していた。特徴のある小さな繭で近似種は見当たらないと思われるが成虫を見ていないので疑問は残る。皇居（小西・前藤, 2000）明治神宮ともに（渡辺恭平, 2013）記録は無い。稲の大害虫であるフタオビコヤガの幼虫に寄生し米の収量が上がることと繭の形から豊年俵の名があるという。

**25. ツマグロケンヒメバチ *Spilopteron apicale* ハチ目ヒメバチ科**

撮影：2012/6/27 吉野. に水生植物園のタカトウダイの花で吸蜜中の雌を撮影している。2014/6/27には、旧インセクトarium付近で倒伏してから2年目のコナラの枯幹に産卵管を差込み産卵中の雌が見られた。この日の前後1週間程観察され、多い日で20匹は見られた。明治神宮に記録は無い（渡辺恭平, 2013）。皇居は不明である。



26. コンボウヤセバチ (オオコンボウヤセバチ) *Gasteruption jaculator* ハチ目コンボウヤセバチ科
撮影：2010/8/18, 2010/8/25, 2011/8/17, 2011/8/31, 2012/7/18, 2012/7/25, 2012/8/1, 8/15, 2012/9/5, 2013/7/30, 2013/8/21, 2014/7/16, 吉野. タカトウダイの花やヌルデの花に毎年観察される普通種である。皇居では記録がある（小西・前藤, 2000）が明治神宮では不明である。



27. ハラアカマルセイボウ *Hedychrum japonicum* ハチ目セイボウ科

撮影：2012/6/13 吉野. 武蔵野植物園のヒメジョオンの花で吸蜜個体を撮影。撮影はこの日だけで、目撃記録も無い。皇居では2005/6/13に記録がある（南部敏明, 2006）。明治神宮に記録は無い（渡辺恭平, 2013）。萩原は1980年代後半に園内のソメイヨシノの葉柄の蜜腺に来るイツツイラガセイボウやイラガの繭に産卵する個体を確認している。



28. キオビツチバチ *Scolia oculata* ハチ目ツチバチ科

撮影：2011/7/27, 2013/6/18, 2013/7/2, 2013/7/17, 2013/8/14 吉野. ヤブガラシの花など多くの花に吸蜜に飛来する普通種。近似のアカスジツチバチよりも個体数は多い。

皇居では（南部敏明, 2000）1 個体記録はあるが, 2006 年には記録が無い（南部敏明, 2006）。明治神宮では 1 個体の記録がある（寺山守, 2013）。

**29. オオハヤバチ（トガリアナバチ） *Tachytes sinensis sinensis* ハチ目ギングチバチ科**

撮影：2012/7/3, 2013/7/2 吉野. 水性植物園のコバノカモメヅルの葉上でじっとしていた個体を撮影。体が大きく敏捷な動きをするので比較的目立つ存在だが, それほど個体数は多くない。園内では圧倒的に多いアオマツムシやコバネイナゴも餌となっているようだ。林の深い公園では普通に見られる。明治神宮では記録がない（寺山, 2013）が, 皇居では数多く見られている（南部・清水, 2000, 南部, 2006）。



30. ムモンホソアシナガバチ *Parapolybia indica* ハチ目スズメバチ科

撮影：2012/7/23, 吉野. 長年ヒメホソアシナガバチと間違えられていたと考えられる。スズメバチ科では園内で最も個体数の多い種である。ほとんどが林内に多いアオキの葉裏に巣を作り，調査の折に毎年被害に遭うほどである。皇居（南部・清水，2000，南部，2006），明治神宮（寺山，2013）共に多数の記録がある。



31. コガタウツギノヒメハナバチ *Andrena tsukubana* ハチ目ヒメハナバチ科

写真同定：長瀬博彦氏 撮影：2013/5/8 萩原. 頭盾が湾曲していること，体長が10 mm前後でやや小型なのでウツギノヒメハナバチと区別する。成虫は初夏のマルバウツギが咲く頃に現れ，後足に黄色い花粉団子つけて地中の巣に持ち帰る。同様の行動をするヒメハナバチ類は多いが本種はマルバウツギの咲くときのみ見られ，そのときは比較的個体数が多い。皇居（南部・清水，2000，南部，2006），明治神宮（寺山，2013）共に記録がない。



32. アカガネコハナバチ *Halictus aerarius* ハチ目コハナバチ科

撮影：2013/6/27, 2013/7/9 吉野. 小さなコハナバチ科の中でも真鍮のような金属光沢があって目に付く。雄は秋口に出現する社会性を持つ。シロスジカタコハナバチと共に園内で個体数の多い種である。皇居（南部・清水，2000，南部，2006），明治神宮（寺山，2013）共に多数の記録がある。



33. ホリカワクシヒゲガガンボ *Ctenophora bifasciipennis* ハエ目ガガンボ科

撮影：2012/7/12 萩原, 2012/9/5 吉野. 2012年7月は触覚が櫛毛となっていない雌個体で路傍植物園にて残骸を発見。9月は雄個体で武蔵野植物園のスタジイ幼木の葉裏で撮影。

南方系の種であるが、東京でも観察記録は多い。幼虫は腐葉土を摂食する。明治神宮では複数観察されているが（伊藤, 2013）、皇居では未確認のようである（鳥居, 2000）。



34. トゲツヤヘラクチイシアブ *Pogonossoma funebre* ハエ目ムシヒキアブ科

撮影：2012/9/12, 2013/8/14 吉野. 水生植物園の杭のロープに撮影。1年に1回程度観察できる大型のムシヒキアブ。真っ黒で艶がありよくハエ類を捕食している姿がみられる。幼虫は立ち枯れ木を穿ち腐朽材を食べる。皇居では1例観察されている（篠永, 2000）が、明治神宮では観察されていない（伊藤, 2013）。



35. キゴシハナアブ *Eristalinus quinquestriatus* ハエ目ハナアブ科

撮影：2012/10/17 吉野. 水生植物園でアキノウナギツカミの花の花粉を食べる。斑模様をした黄色い複眼が特徴の小型のハナアブ。2012年からは急に見られるようになり特に秋に個体数が多いことが確認されているが、以前には目撃の記憶も無い。もともと南方系の種で成虫越冬をする。1996 - 1999年調査の皇居では記録が無い（大原, 2000）。また明治神宮でも観察されていない（伊藤, 2013）。



36. カクモンハラブトハナアブ *Mallota abdominalis* ハエ目ハナアブ科

撮影:2014/6/4 吉野, 路傍植物園のヤマアジサイの花で撮影。目撃もこの1回だけである。千葉県, 埼玉県では絶滅危惧種に指定がある。ナミハナアブに似るが毛が少なく後肢が太くカクモンアシブトハナアブの別名を持つ。1996 - 1999年調査の皇居では記録が無い(大原, 2000)。また明治神宮でも観察されていない(伊藤, 2013)。



37. スイセンハナアブ *Merodon equestris* ハエ目ハナアブ科

撮影:2012/5/9, 2013/5/1, 2013/5/8, 2014/5/20 吉野, 萩原, 中型のアブで茶褐色の長毛で覆われる。撮影はいずれも5月上旬から中旬に限られている。スイセンの根を食害するのでこの和名がある。チューリップなどの球根について南ヨーロッパから進入したといわれる帰化昆虫。明治神宮では2頭の記録がある(伊藤, 2013)。皇居では記録が無い(大原, 2000)。



38. モンキモモブトハナアブ *Pseudovolucella decipiens* ハエ目ハナアブ科

撮影:2013/10/9, 2013/10/17 吉野, 2回の記録しかなく稀な種と思われる。2013/10/17は路傍植物園のイヌシヨウマの花で花粉を食べる, 2013/10/9は武蔵野植物園でテンニンソウの花で撮影。翅の中央に太く黒い帯模様が特徴。皇居では記録が無い(大原, 2000)。また明治神宮でも観察されていない(伊藤, 2013)。



引用文献

- 藤森健史・新里達也. 2013. 明治神宮の脈翅類. 鎮座百年記念第二次明治神宮境内総合調査報告書, 281-282. 鎮座百年記念第二次明治神宮境内総合調査委員会編. 明治神宮社務所.
- 久居宣夫. 2008. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の日撃記録 (18). 自然教育園報告, (39): 47-61.
- 久居宣夫. 2009. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の日撃記録 (19). 自然教育園報告, (40): 47-57.
- 石川忠・林正美. 2013. 明治神宮の半翅類 (腹吻類を除く). 鎮座百年記念第二次明治神宮境内総合調査報告書, 268-280. 鎮座百年記念第二次明治神宮境内総合調査委員会編. 明治神宮社務所.
- 伊藤憲正. 2013. 明治神宮の双翅目. 353-360. 鎮座百年記念第二次明治神宮境内総合調査報告書. 鎮座百年記念第二次明治神宮境内総合調査委員会編. 明治神宮社務所.
- 河合省三. 2000. 皇居のカイガラムシ相. 国立科博専報, (36) 57-82.
- 河合省三. 2002. 自然教育園のカイガラムシ類. 自然教育園報告, (34): 131-148.
- 岸田泰則. 2013. 明治神宮の蛾類. 鎮座百年記念第二次明治神宮境内総合調査報告書, 374-383. 鎮座百年記念第二次明治神宮境内総合調査委員会編. 明治神宮社務所.
- 国立科学博物館附属自然教育園. 自然教育園動物目録. 2007. 105pp.
- 小西和彦・前藤薫. 2000. 皇居のヒメバチ上科, ヤセバチ上科, カギバラバチ上科およびヒラタタマバチ科. 国立科博専報, (36) 307-323.
- 野村周平・平野幸彦・斉藤明子・上野俊一・渡辺泰明. 2000. 皇居の昆虫相. 国立科博専報, (36) 185-255.
- 野村周平・上條哲也・市野澤慎. 2006. 皇居における空中浮遊性甲虫の多様性と動態—2004年度地上FITによる調査. 国立科博専報, (43) 187-240.
- 南部敏明・清水晃. 2000. 皇居の有剣類. 国立科博専報, (36) 335-354.
- 南部敏明. 2006. 皇居の有剣類モニタリング調査. 国立科博専報, (43) 241-254.
- 文部省国立自然教育園. 1952. 国立自然教育園動物目録第1集昆虫綱 (国立自然教育園基礎資料第1号).
- 岡田圭司・平野幸彦・新里達也. 2013. 明治神宮の甲虫類. 鎮座百年記念第二次明治神宮境内総合調査報告書, 283-330. 鎮座百年記念第二次明治神宮境内総合調査委員会編. 明治神宮社務所.
- 小野展嗣. 2000. 皇居の庭園と濠のクモ. 国立科博専報, (35) 127-145.
- 小野展嗣. 2006. 皇居の庭園と濠のクモ—モニタリング調査 (2001-2005). 国立科博専報, (43) 407-418.
- 小野展嗣. 2013. 明治神宮の森と庭園のクモ. 鎮座百年記念第二次明治神宮境内総合調査報告書, 384-415. 鎮座百年記念第二次明治神宮境内総合調査委員会編. 明治神宮社務所.
- 大原賢二. 2000. 皇居のハナアブ科. 国立科博専報, (36) 401-408.
- 大和田守・有田豊・岸田泰則・池田真澄・神保宇嗣. 2000. 皇居の蛾類. 国立科博専報, (36) 115-168.
- 大和田守・有田豊・神保宇嗣・岸田泰則・中島秀雄・池田真澄・平野長男. 2006. 皇居の蛾類モニタ

- リング調査 (2000-2005). 国立科博専報, (43) 37-159.
- 斉藤明子. 2000. 皇居のカミキリムシ類. 国立科博専報, (36) 287-294.
- 篠永 哲. 2000. 皇居の糸角垂目ならびに短角群双翅目昆虫. 国立科博専報, (36) 397-399.
- 高桑正敏・佐藤岳彦. 2013. 明治神宮の蝶. 鎮座百年記念第二次明治神宮境内総合調査報告書, 361-373. 鎮座百年記念第二次明治神宮境内総合調査委員会編. 明治神宮社務所.
- 塚口茂彦. 2000. 皇居の脈翅類. 国立科博専報, (36) 109-113.
- 寺山守. 2013. 明治神宮の有剣膜翅類. 335-347. 鎮座百年記念第二次明治神宮境内総合調査報告書. 鎮座百年記念第二次明治神宮境内総合調査委員会編. 明治神宮社務所.
- 鳥居隆史. 2000. 皇居のガガンボ類. 国立科博専報, (36) 369-372.
- 山崎柄根. 2013. 明治神宮の森に見られた直翅系昆虫, 262-267. 鎮座百年記念第二次明治神宮境内総合調査報告書. 鎮座百年記念第二次明治神宮境内総合調査委員会編. 明治神宮社務所.
- 渡辺恭平. 2013. 明治神宮のヒメバチ科, コマユバチ科およびヒラタタマバチ科. 348-352. 鎮座百年記念第二次明治神宮境内総合調査報告書. 鎮座百年記念第二次明治神宮境内総合調査委員会編. 明治神宮社務所.